

科目名	医療安全管理学	担当教員	信太 雅洋・森野 陽 和田 龍彦・野陳 佳織 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------	------	---

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻 作業療法学専攻	専門基礎科目	必修	3年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR33G	①、②					

科目概要	人の命を扱う医療現場においては、患者ならびに医療従事者が有害事象を起こさない、また遭わないようにするための対策が常に求められている。医療機器の危険性や特徴を理解し、安全な取り扱いを身に付けることは医療人にとって必須条件となる。本講義では、医療機器の取扱いと安全管理、医療現場での安全管理体制の構築と安全環境を確保する心構え、さらに感染防止や医療ガスの取扱いなどを具体例にそって習得する。
学習目標	① 人の命と取り扱う医療機器の取扱いとその安全性について理解する。 ② 医療現場における安全管理体制を習得する。 ③ 有害事象の未然防止と発生事故への適切な対応策について理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	医療現場と危険性	医療安全とは、医療事故と有害事象、リスクマネジメント、医療事故調査制度。	医療安全管理と医療事故の実態を学び、リスクマネジメントや事故調査制度の説明ができる。	
2	生体物性と医療材料	生体の電気的特性と温度特性、生体の力学的特性と代用臓器、医用材料の特徴と安全性。	生体の機械的特性や電気的特性、温度特性や光特性、さらに生体用人工材料の説明ができる。	
3	生体計測（信号と雑音）	生体情報とは、生体情報の計測手段、センサと増幅器、雑音と信号、情報の保存と管理。	生体情報の計測構成とセンサの現状を習得し、雑音の低減策や医療情報管理の説明ができる。	
4	医療設備の安全確保	院内設備とその安全、ISO と JIS、感電とマクロショック、院内停電とその対策、医療安全のための分析。	医療電気設備の体系化と国内外の規格を習得し、院内設備の安全や停電対策の説明ができる。医療事故の分析ができる。	
5	医療検出機器の取扱いと安全管理	循環系および呼吸系生体情報検出機器の取扱いとその安全管理、脳波や筋電図測定と測定機器。	医療検出機器の安全な取扱いと管理ができ、代表的医療機器の構成や動作原理を説明できる。	
6	治療機器の取扱いと安全管理	ペースメーカーの動作原理と取扱い、AED の使用目的と安全性、手術用機器とは。	各種エネルギーを用いた治療用機器の取扱いを学び、安全性や管理方法を説明できる。	
7	滅菌・消毒・感染防止	院内感染、滅菌と消毒、感染防止機器、医療ガス。	滅菌・殺菌・消毒等が区別できると共に、滅菌装置の構成を知り、感染の要因とその対策について説明できる。	
8	リハビリテーション治療時の安全確保	リハビリテーション時におけるパルスオキシメーター、在宅酸素療法機器、人工呼吸器。	リハビリテーションを行う際にパルスオキシメーターや人工呼吸器を使用する際の注意点を説明できる。	
評価方法		筆記試験(80%)、レポートまたは小テスト(20%)で評価する。		
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 定期試験の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		教員作成教材を使用する。		
参考図書		日本生体医工学会 ME 技術教育委員会『ME の基礎知識と安全管理 改訂第 7 版』南江堂、2020 年 等		
学習の準備		1 参考書もしくは事前に配布した資料について予習をしておくこと（90分） 2 講義の理解が不十分である箇所を明確にしておき、次の講義で質問出来るよう準備しておくこと（90分）		

オフィスアワー	非常勤講師は講義の前後。 常勤講師は月・火・木・金曜日の 16 時 30 分から 18 時
担当教員欄に※印を 附した教員の実務経 験	